

カナダの金融市場動向 Weekly Report

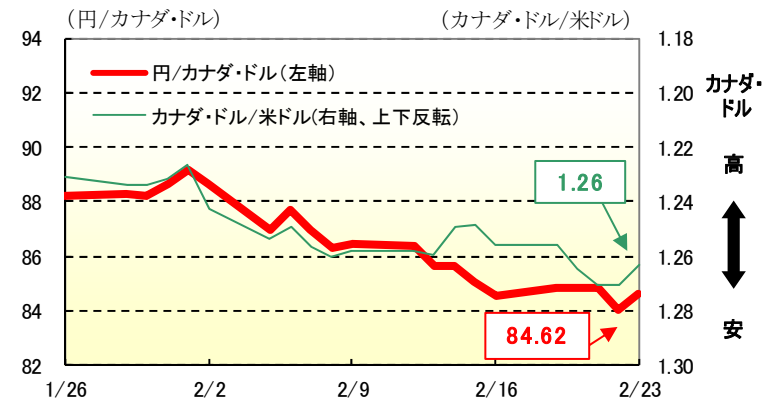
【2018年2月17日～2018年2月23日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円はほぼ横ばいとなり、カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週はカナダで複数の重要な経済指標が発表されました。小売売上高は事前予想を大きく下回る軟調な結果となりましたが、これは百貨店シアーズ・カナダの店舗閉鎖による一時的な要因が影響していると考えられます。一方、CPI(消費者物価指数)は、事前予想を上回る結果となりました。債券市場は、主に小売売上高の結果を受けて金利低下圧力が優勢となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年1月26日～2018年2月23日)



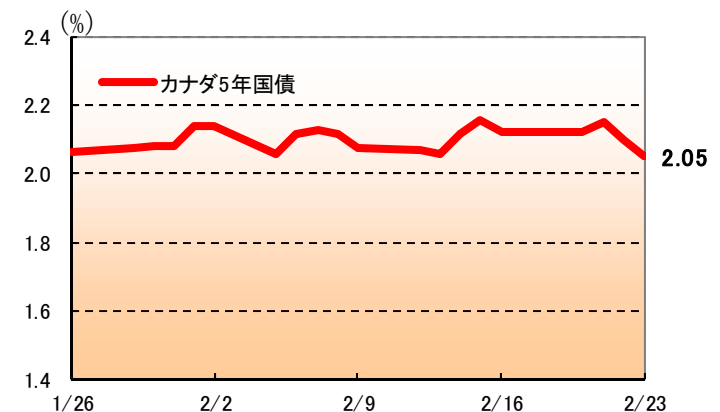
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週、カナダではGDP(国内総生産)が発表されます。先日発表された軟調な結果となった小売売上高からすると、GDP自体はそれほど上振れしないと考えられます。一方で、同じく先週発表されたコアCPIはカナダ銀行(中央銀行)のターゲットに着実に近づいており、追加利上げ期待が根強く残ることから、カナダ・ドルは底堅く推移すると見込んでいます。

また、今週から3月5日までの予定でNAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の第7回会合がメキシコシティで開催されています。自国を優先する措置を求める米国にカナダやメキシコが反発し交渉は難航していることから、3月末とされていた当初の再交渉妥結目標は先送りされる可能性があります。

【カナダ 金利推移】 (2018年1月26日～2018年2月23日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>